

平成18年度「専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する
職業教育支援事業」成果報告書

事業名	各種検定試験及び高校卒業等の資格取得支援事業		
法人名	学校法人府内学園		
学校名	大学進学予備校 府内学園		
代表者	理事長 財前 俊樹	担当者 連絡先	松尾 敏生 TEL097-546-5213

1. 事業の概要

ニートと呼ばれる若者の中で、就職に対する欲求と自己能力に大きな格差があり、そのことが原因で就職も進学もできないでいる若者を対象に、入試対策講座・資格取得支援講座等を開講し、就職や進学の支援を行なう。尚、受講者は途中挫折しないよう自立支援アドバイザーの精神的支援を受ける。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

当初、30～40名程度の受講者を見込んで、講座開設を準備したが、受講希望者は23名、最終的に受講を開始したのは16名で受講予定者の半数であった。これは、校舎内に入ることができなかつたり、あるいはニートという言葉に抵抗感を示し、受講しなかったものと思われる。受講者に関しては、自立支援者に支えられて途中で挫折することなく、全員が講座を終了することができた。しかし、進学・就職への道は厳しく、本人がまだどのような進路を希望してよいのか決定できない者が多数みられた。

②事業により得られた成果

受講者16名中進学内定者3名、就職内定者1名、高校卒業程度認定試験受験希望者1名、専門学校受験予定者1名。未定者10名。CS検定試験合格者8名。食生活アドバイザー合格者2名。他の講座に関しては今後受験予定である。

③今後の活用

従来、本学園は若者を支援するいくつかのNPO法人と常に連携・協力をしてきた。今後も、これらのNPO法人以外とも連携をとり、何らかの支援ができる方法を模索していきたいと思っている。

④次年度以降における課題・展開

講座受講を望みながら、教育機関の建物に入れない若者に対する資格検定支援事業にどう行なうか。ニートというイメージを払拭した形の募集をどう行なうか。

事業の継続をするのにどう資金源を確保するか。

就職・進学の利用者側に彼等の本質を理解をしてもらえるかの課題がこのころ。今回協力してくれた各NPO法人を含め、関係NPO法人では、それぞれの法人事務所内における出張学力支援を希望指定している。しかし、資金面の問題があり、今後の検討事項としている。

3. 事業の実施に関する項目

①自立支援アドバイザー

受講生は主たる自立支援者(4人)が割り当てられ、2週間に一回程度の割合で、定期的に面接を繰り返しながら、事項していくことを義務づけた。自立支援者は、116回(延べ176時間)の面接を実施し、常に精神的支援を心がけた。特に、受講者が精神的に落ち込んだり、あるいは悩んだりしていると思われる場合、支援者は診療内科医とコンタクトをとりながら、複数の支援者で協力しながら受講者支援を施した。

②講座の実施

講座開講期間と回数:9月～1月の4カ月間に各講座50回を目処に行なう(但し、SCのみ100回)

対象者:定職・学籍をもたない18歳から35歳程度までの若者

場所:府内学園

受講者の反応:非常に真剣に取り組む。

受講講座:大きく4講座に分け、複数の講座受験を可とした。

(1)就職活動講座=目的:就職後実用可能となる

①日商簿記3級講座 ②コンピューターサービス技能評価3級試験講座 ③秘書検定3級講座

(2)大学・短大・専門学校等入試対策講座=目的:進学を目指す

①国語小論文対策講座 ②数学講座=数ⅠA程度とする ③英語講座 =英Ⅰ程度とする

(3)教養講座=目的:就職や進学を有利にする

①食生活アドバイザー講座 ②漢字検定準2級講座 ③数学検定準2級講座 ④英語検定3級講座

(4)学習意欲付け講座=目的:ニート生活で学習生活のついていない人たちに学習習慣付け

①書道講座 ②コンピュータ基礎講座

③その他

ニートに対して、進学することを中心に支援する。その際、強制的な講座受講をさせず、自分の興味ある講座のみを選択させる。その際、途中挫折したり、諦めたりしないようにケースワーカーや認定心理士等の自立支援者による精神面での支えをおこなっていく。受講者には目的意識をもたせるため、最終的に何らかの検定試験または入試を受けてもらうこと入講時の約束とした。